

みずほCustomer Desk Report 2019/10/24 号(As of 2019/10/23)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	108.48	1.1129	120.72	1.2885	0.6860
SYD-NY High	108.70	1.1141	121.05	1.2922	0.6862
SYD-NY Low	108.25	1.1107	120.40	1.2842	0.6834
NY 5:00 PM	108.70	1.1130	120.99	1.2917	0.6854
NY DOW	26,833.95	45.85	日本2年債	-0.25	0.00bp
NASDAQ	8,119.79	15.50	日本10年債	-0.14	0.00bp
S&P	3,004.52	8.53	米国2年債	1.5867	▲1.18bp
日経平均	22,625.38	76.48	米国5年債	1.5933	0.33bp
TOPIX	1,638.14	9.54	米国10年債	1.7669	0.01bp
シカゴ日経先物	22,805.00	105	独10年債	-0.3935	▲2.35bp
ロンドンFT	7,260.74	48.25	英10年債	0.6820	▲2.90bp
DAX	12,798.19	43.50	豪10年債	1.1035	▲6.90bp
ハンセン指数	26,566.73	▲219.47	USDJPY 1M Vol	5.48	▲0.05%
上海総合	2,941.62	▲12.76	USDJPY 3M Vol	5.69	▲0.09%
NY金	1,495.70	8.20	USDJPY 6M Vol	6.18	▲0.05%
WTI	55.97	1.49	USDJPY 1M 25RR	-1.00	Yen Call Over
CRB指数	177.30	1.79	EURJPY 3M Vol	6.41	0.13%
ドルインデックス	97.49	▲0.03	EURJPY 6M Vol	6.78	0.04%

東京	東京時間のドル円は108.48レベルでスタート。前日の米国株下落を受けて、日経平均株価が寄り付き後に急落する中、英議会がEU離脱協定関連法案を3日間で審議する動議を否決したことを受けたポンド円の下落もあって、ドル円は一時108.25まで下落。しかしその後は日経平均株価が上昇に転じたことで、ドル円は下げる幅を拡大する展開とはならず、小確りと推移。108.38レベルで海外市場へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場ドル円は小動き。108.38レベルでオープン。英国のEU離脱先行き不透明から若干のリスクとなり円買いが優勢となり108.30を付けた。その後は108円台前半で様子見となり108.46レベルでニューヨークへ渡った。ポンド円は1.2871レベルでオープン。昨夜の英下院の採決の結果を受け10月末でのフレギット期待が後退し1.2843まで小緩んだ。その後は今後の動向を睨みながら1.28台後半で方向感なく推移し1.2870レベルにてニューヨークへ渡った。(00531 444 179)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、フレギット連闇のハットライが警戒される中、様子見ムードが強まり、108.40近辺の狭いレンジで推移し、108.46レベルでNYオープン。朝方は米金利が低下幅を縮小する動きや、原油価格上昇を背景に上昇した資源国との円高円安にサポートされ、108.70までじりじりと上昇。午後は割り平均がマイナスに沈むと108.62まで小幅反落。しかし、終盤に米10年債利回りが海外時間の低下を全て戻し、上昇に転じる中、ドル円は底堅く、結局、高値108.70でクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、10月中のフレギット合意への期待が後退する中、ユーロ円は1.1108までじりじりと下落。その後、小幅に値を戻し、1.1120レベルでNYオープン。朝方は手掛かり材料が乏しい中、1.1120近辺でもみ合い。その後、ユーロ円の上昇に連れ高となり、1.1141まで上昇。明日にECB理事会を控える中、終盤は1.1130近辺で小動きとなり、そのまま1.1130レベルでNYクローズ。本日はフレギットを巡り、「英国の延期申請に対するEUの回答はおそらく25日に決定」、「仏大統領が延長期限は11月15日までと主張」等のハットライが流れたものの、ドル円やユーロへの反応は限定的だった。

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
10月23日	23:00	欧 消費者信頼感指数	10月 -7.6	-6.8

【本日の予定】

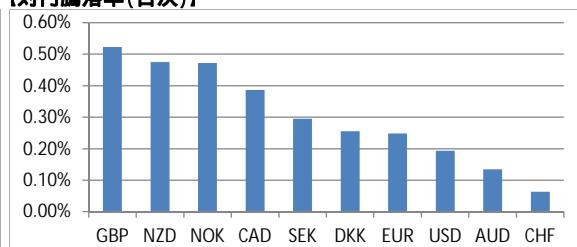
Date	Time	Event	予想	前回
10月24日	16:30	独 マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)	10月 42.0/52.0/48.8	41.7/51.4/48.5
	17:00	欧 マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)	10月 46.0/51.9/50.3	45.7/51.6/50.1
	20:45	欧 ECB理事会 ECB主要政策金利	- 0.00%/0.25%/-0.50%	0.00%/0.25%/-0.50%
	21:30	欧 ドラギECB総裁 記者会見	-	-
	21:30	米 耐久財受注(前月比)/同(除く輸送用機器・前月比)・速報	9月 -0.7%/-0.2%	0.2%/0.5%
	22:45	米 マークイット製造業/サービス業/総合PMI	10月 50.9/51.0/-	51.1/50.9/51.0
	23:00	米 新築住宅販売件数	9月 702k	713k

市場営業部 為替営業第二チーム

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 ドラギ総裁最後のECB理事会は現状維持しかない

あと10週間を残すのみとなった今年は、香港デモや中東侵攻など新たな地政学リスクが登場したが、市場が注目してきた米中貿易戦争やBrexitは大きな成果なく、変化してきたのは各国中銀の金融政策。景気減速の兆しがグローバルに見え始めたことが主因で、今月末に主要中銀の金融政策決定会合が控えており、徐々にこちらへの注目度が高まつてくるだろう。最初に迎えるのは本日のECB理事会。9月には預金金利 +10bp & 金利階層化導入を決定、また資産買入も11月1日から月額20blnのペースで再開するというフルパッケージの緩和を発表した。しかし、会合終了後数時間でQE再開だけでなく利下げにも反対のメンバーがいたとの観測報道が流れ、ドラギ総裁が押し切った内容であったことが判明。これは9月理事会の議事要旨でも明らかとなっており、ここまで意見の相違が顕著になれば10月理事会では現状維持とせざるを得ないだろう。幸いにも、直近1ヶ月の経済データは鉱工業生産の下落に歯止めがかかっているように見えること、またCPIは低位ながらも安定推移していることを勘案すれば、景況感の弱さこそ継続しているものの追加緩和が即座に必要な状況ではないか。また、議論を呼んでいる資産買入もまだ再開されておらず、9月フルパッケージ緩和の効果もまだ完全には現れていない点も考慮されよう。約8年間ECBを率いたドラギ総裁の最後は、Whatever it takes(何でもやる)の姿勢で危機を乗り越えてきた手腕へのプラス評価ではなく、最後の分断を招いた運営へのマイナス評価の方が印象に残ってしまうのかもしれない。政治家出身であるラガルド新総裁には、足許の分断されたECBメンバーの意見を上手くすり合わせて、今の難局を乗り越えることを期待したい。EURはGBPに追随する展開が続いているが、今回のECB理事会も新規材料に乏しく特段市場の反応は乏しいものとなろう。EURが一段と上を目指すには、主要国での財政拡張的な政策が導入されるかどうかがポイント。EU財政ルールに照らして余地があるのは独・オランダ程度だが、その行方に一段と注目したい。(岡本)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧説を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報を基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を向わす無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:岡本・原田 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

	竹内	加藤	関	光石	岡本	上野	原田	玉井	ブル	ペア
Today	ペア	ペア	ペア	ブル	ペア	ブル	ペア	ペア	2	7
Week	ペア	ペア	ペア	ブル	ブル	ブル	ペア	ペア	3	6